

ごけん

平成 26 年 **春** 号

日本語検定 実施予定

平成 26 年度第 1 回 (通算第 15 回)

[一般会場] **6月14日(土)**

[準会場] **6月13日(金)・14日(土)**

[申込期間] **3月1日(土)～5月16日(金)**

後 援：文部科学省／日本商工会議所
経団連事業サービス／全国連合小学校長会
全日本中学校長会／全国高等学校長協会
全国工業高等学校長会／全国商業高等学校協会
全国高等学校国語教育研究連合会
日本 PTA 全国協議会
全国高等学校 PTA 連合会
日本青少年育成協会 他

特別協賛：読売新聞社

協 賛：時事通信社／東京書籍

もくじ

ごけんメッセージ 二瓶弘行	2
ごけん情報板	4
採点室から	5
個人表彰受賞者の声	6
第 5 回日本語大賞 表彰式	7
受検団体の声	8
にほごん にほんご劇場	10
受検案内／プレゼント・クイズ	12



日本語検定公式キャラクター「にほごん」

特定非営利活動法人

 **日本語検定委員会**

「言葉」の力

暖かな春の4月、小学校に入学したばかりの1年生の国語教室。小さな子どもたちが、一生懸命に文字を書いています。初めて学ぶ、平仮名という文字。

あいうえお かきくけこ さしすせそ…。バラバラに並べてみれば、たった46個の文字にしかすぎません。

でも、この文字たちがいくつか集まると、言葉をつくるとき、その言葉は信じられないほどの大きな力をもつ存在となります。

「う・ま・れ・て・き・て・く・れ・て・あ・り・が・と・う」

この社会で生きていくことがイヤになり、様々な非行を繰り返して警察に補導された子どもに、その母親が手紙で綴った言葉です。中学生のその子は、手紙を読みながら、声を上げて泣いたそうです。

そして、また、人を信じることを始め、学校へ戻っていきます。わずか14個の

文字が、彼を救いました。

「お・ま・え・は・こ・の・よ・か・ら・き・え・ろ」

このたった12個の平仮名。何回かキーを叩き、メール送信ボタンを押すだけで、相手の手元にあつという間に届く。その人が、どんな表情で文字を読むのかを知ることなく。

けれども、もし、その人が自分の前にいたら、この12個の文字を並べることはきっと難しい。自分の声その人に伝わるのが分かるから。受け取ったその人の思いが見えるから。だから、きっと躊躇する。言葉は恐ろしい。その人の心を深く傷つけ、時として、命をも奪うことがある。

だから、国語教室で、子どもたちは学ばなければなりません。

言葉は、時として人を救うこと。時として人を傷つけること。自分の使う言葉

がそれを受け取る人にとって、どんな意味をもつのか考えなければならないこと。安易に言葉を並べてはいけないこと。それほどに、言葉は重いこと。

だから、そして、国語教室で、子どもたちは学ばなければなりません。

一編の詩を学習材に、言葉が美しい作品世界を創り上げていること。言葉のもつ面白さ、楽しさ、不思議さ。一編の物語を学習材に、言葉が人間の生の真実を描いていること。言葉のもつ巧妙さ、すばらしさ、凄さ。

だから、国語教室で、どうしても、子どもたちは学ばなければなりません。

言葉を読む力、言葉を書く力、言葉を話す力、言葉を聞く力。その言葉の力を獲得することは、人間としてこの世を生きていくために、何よりも必要な力だということ。言葉の力は、生きる力だということ。

私は、筑波大学附属小学校で20年間、国語教師を続けています。そして、今日も、子どもたちに「言葉の力」を獲得させるために国語の授業をしています。

ただ、思います。彼らに「生きる力」としての確かな言葉の力を獲得させるためには、学校を離れた生活の中での学びが必要だということ。家庭はもちろん、彼らを取り巻く社会そのものが、大切な言葉の力の学びの場なのです。「日本語検定」は、きっと、その大切な役割を担っているのだと信じます。



二瓶 弘行 (いへい ひろゆき)

新潟県生まれ。早稲田大学第一文学部を卒業後、新潟県内の公立小学校に10年間勤務。その後、上越教育大学大学院の修士課程を修了。1994年から筑波大学附属小学校に勤務し、21年目の現在に至る。

立教大学 文学部兼任講師/全国国語授業研究会 理事/国語教室ネットワーク「ひろがれ国語」代表/基幹学力研究会 国語代表/東京書籍教科書「新しい国語」著者 日本語検定委員会審議委員 (2014年3月より)

○主な著書・共著

- 『物語の「自力読み」の力を獲得させよ』(東洋館出版社)
- 『最良の教材で、最高の「言葉の力」を育む国語授業』(東洋館出版社)
- 『二瓶弘行の「説明文一日講座」』(文溪堂)
- 『二瓶弘行の「物語授業づくり一日講座」』(文溪堂)
- 『二瓶弘行の「対話授業づくり一日講座」』(文溪堂)
- 『二瓶弘行の「物語授業づくり 入門編」』(文溪堂)
- 『いまを生きるあなたへ 贈る詩50』(東洋館出版社)

筑波大学附属小学校
Nihei Hiroyuki

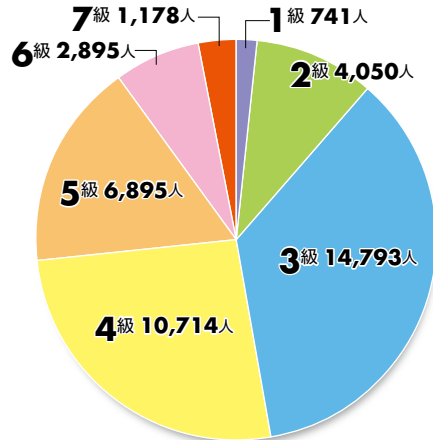
二瓶弘行

昨年11月に実施した、平成25年度第2回（通算第14回）日本語検定について、各級の受検者数などのデータをご紹介します。

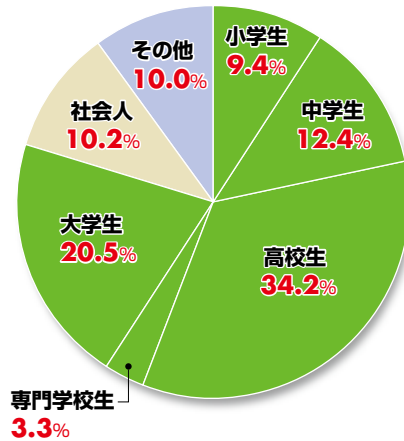
◎平成25年度第2回（通算第14回）

■受検者総数と級別受検者数

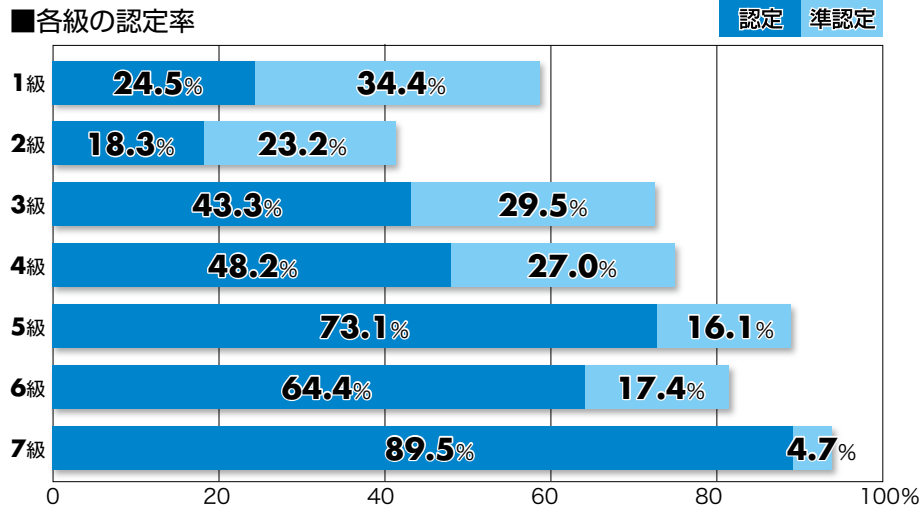
計 **41,266**人



■受検者の学校・所属別割合



■各級の認定率



「手紙やメールでの敬語」

25年度第2回の問題より

このコーナーでは、平成25年度第2回日本語検定で、特に正答率の低かった問題をご紹介します。今回は敬語の領域で正答率の低い問題が、上位級である1～3級でも多々見られました。ここでは、3級で出題された「手紙やメールで使われる敬語」を取り上げます。

■【 】のようなとき、それぞれの（ ）部分はどのような書き方をすればよいでしょうか。最も適切なものを選んで、番号で教えてください。

○【就職祝いを送ってくれた親戚への礼状の最後に】

（ ）、書中をもってお礼申し上げます。

[1 取り次ぎ 2 取り急ぎ 3 取り計らい] (答え：2—正答率48.4%)

★本来なら直接会って礼を述べるべきところを、とりあえず手紙やメールで感謝の意を伝えるという場合に用いる表現として、2「取り急ぎ」が適切です。礼状などの手紙のほか、ビジネスメールで急ぎ要件のみ伝えるという場合にも、よく使われる表現です。社会人では8割以上の方が正解していますが、大学生の正答率は半分以下の4割程度になっています。

○【「拝復」で始まる手紙の結びに】

末筆ながら、向寒の折、ご自愛のほど念じ上げます。（ ）

[1 敬具 2 草々 3 御中] (答え：1—正答率48.0%)

★「拝復」は、返信の初めに書く言葉。この言葉で書き始めた手紙文は、最後に1「敬具」で結びます。「拝啓」で書き始めた場合も同様です。社会人では6割以上の方が正解していますが、大学生の正答率は4割にとどまっており、ほぼ同数の人が2「草々」を選んでいます。ちなみに、「草々」は「前略」などで書き始めた手紙の結びに使う言葉で、「拝啓」「拝復」とともに用いません。

○【取引先にパンフレットのデザイン案を送ることを知らせるメールで】

さ（ ）の上、お気づきの点などございましたら、ご教示ください。

[1 高覧 2 閲覧 3 観覧] (答え：1—正答率36.1%)

★「見る」の尊敬語の漢語的表現である1「(ご)高覧」。これもビジネス文書ではよく使われる表現です。社会人では6割近くの方が正解していますが、大学生の正答率は4割を下回っており、半数近い人が2「閲覧」を選んでいます。ちなみに、「閲覧」は図書館などで書籍や新聞を読むこと。下絵や原稿に目を通すという場合には用いません。

ここに挙げたのはいずれも、とりわけ高度な知識を要求する問題ではなく、社会生活で広く用いられる慣用表現を身につけることで、十分に正解にたどりつけるものです。特にこれから就職を控えている大学生の皆さんには、敬語の使い方、手紙の書き方などに関する書籍やウェブサイトを目を通したり、普段の会話やメールの中で年長の人たちが使っている表現に注意したりすることをおすすめします。

個人表彰受賞者の声

平成 25 年度第 2 回日本語検定個人表彰受賞者の中から、3 名の方にお話をうかがいました。

時事通信社特別賞 (各級年少・年長の成績優秀者)

中学生で 2 級認定となった千田さんと菅原さんは
なんと同じ中学校の隣のクラス！

このような素晴らしい賞をいただき、とても嬉しいです。自分の日本語に自信が付き、前にもまして日本語が好きになりました。これからもたくさんの日本語に触れ、言葉の豊かな人になりたいです。



岩手県立一関第一高等学校附属中学校
3 年

千田 夏海さん

今回は、2 級に合格することができ、とても嬉しいです。検定を通して、改めて日本語の面白さと奥の深さを感じることができたように思います。これからも日本の宝である日本語を大切にしていきたいです。



岩手県立一関第一高等学校附属中学校
3 年

菅原 健伸さん

日本語検定委員会賞 (複数回 1 級認定者)

日本語検定委員会賞には、1 級に 8 回認定された
入江一彦さんが選ばれました！

日本語検定試験を毎年 2 回受け続けています。準 1 級認定が続き、やっと 1 級を頂いたとき、「今回の 1 級はまくれか」との囁きを聞いたように思い、また受けてみました。準 1 級よりも 1 級の合格回数が多くなる「勝ち越し」まで、さらに数年かかりました。

そのうち、この試験の魅力に気付いたのです。受検中に毎回、「今度はそっちから攻めてきたか」と苦笑する場面があります。今は誤りだが将来は容認されるかと思えるような、揺れを意識した敬語の問題もありました。半年ごとに繰り出される良問に「敵ながらあっぱれ」と叫ぶ楽しみを断てずにいます。

私も還暦を過ぎました。身体能力と違い知的能力は使えば低下しないと云われますが、毎回の難度を揃えた試験を受ければ、自分の能力が維持できているかを知る指標ともなりそうです。



入江 一彦さん

第 5 回日本語大賞 表彰式

テーマ：「伝えたい言葉」「言葉だから表せること」

去る 2 月 23 日、第 5 回「日本語大賞」（主催：日本語検定委員会）の表彰式が、東京都千代田区の読売新聞東京本社新社屋・国際会議室で行われ、文部科学大臣賞受賞者 4 人が表彰されました。

計 2,563 点の応募の中から、第一次、第二次、最終審査に亘る厳正な審査の結果、4 部門それぞれで、文部科学大臣賞、優秀賞、佳作が選ばれました。



文部科学大臣賞

- 小学生の部 森田 悠生さん 「ぼくがいるよ」
富津市立富津小学校 4 年
- 中学生の部 田中 秀和さん 「伝えたい感謝の気持ち」
早稲田大学高等学院中学部 1 年
- 高校生の部 岡田 東子さん 「言葉でしか表せない心」
シカゴ双葉会日本語学校補習校 高等部 2 年
- 一般の部 高山 恵利子さん 「パパが好き」

表彰式は、審査委員でフリーアナウンサーの梶原しげるさんの司会で進行しました。主催者代表の梶田叡一理事長の挨拶、審査委員代表の大橋善光委員の全体講評に引き続き、梶田叡一審査委員長より、文部科学大臣賞が授与されました。受賞者による作品の朗読の後、文部科学省より頂戴した祝辞が披露されました。

*文部科学大臣賞と優秀賞の作品は、日本語検定公式ホームページでご覧いただけます。

検定取得が生涯学習のきっかけに

東京都立葛西南高等学校 永井佳子先生

3年ほど前から検定への取り組みを強化している本校では、平成23年の6月に初めて日本語検定を実施し、毎年2回ずつ希望者による受験を行っています。

日本語検定で扱われている6つの分野のうち、本校の生徒に特に欠けていると思われる力は、「語彙」・「言葉の意味」の分野です。クイズのように練習問題を解きながら学習し、特に語彙等を苦手とする生徒は辞書と首っ引きで励んでいます。

口語における「文法」や「敬語」については、高等学校では授業で取り立てて扱うことが少ないため、日本語検定の練習問題を取り入れて小・中学校での学習の復習を行うこともあります。特に現代の「敬語」についての学習は、古文における敬語の学習の前に行うと、生徒からは分かりやすいと評判でした。

各種検定取得の推進により、本校の卒業生からは高校卒業後も各業界でさまざまな検定・資格取得に挑戦したという声が聞こえてくるようになりました。このよう



に、日本語検定をはじめとする検定への挑戦が、生涯学習のきっかけとなることは大変喜ばしいことです。

本校の現2年生（平成24年度入学生）の検定取得率は約70%（平成25年12月時点）ですが、卒業時には100%（1人1検定以上取得）を目指していきたいと思っています。

大学生の日本語を鍛える

筑波学院大学 金久保紀子先生

日本語にかかわる仕事をしています。日本語を母語とする方、しない方それぞれに毎日対峙しています。

しばらく「黒板」というツールを積極的には利用しませんでした。たとえば、留学生の会話の授業なら、学生の手元に資料を与えて、黒板に書く時間を惜しんで、会話に集中してもらったほうがよいと思っていました。

ところが、最近、教える側である私の漢字の力がどんどん怪しくなっていくような恐ろしさを感じ始めました。同時に大きな字で黒板に書く、という作業は日本語を書く作業の中でも、自分の字を即座に自分にも学生にも見せられるユニークな作業なのだと実感しました。学生や留学生にとって、黒板は生の日本語に触れるひとつのチャンスなのです。

あらゆるタイプの日本語に豊かに触れるチャンスを学生に提供することは、大学教員にとって今とても重要な課題であると思います。学生の知識を増やすことと同時に、様々な日本語を提供できるあらゆるツールを上手にを使って、学生の日本語を鍛えたい、と日々感じています。

日本語を鍛えているプロセスにおいて、学生たちには何かしらのご褒美が必要です。日本語検定は、彼らが日本語を意識化する際にとっても有効な手段であると同時に、日本語を使っている自分たちに対するひとつのご褒美だと考えています。

ご褒美は魅力的であるに越したことはありません。今後の日本語検定にも期待大です。



日本語検定を活用した英語教育

聖母被昇天学院小学校 松崎利彦先生

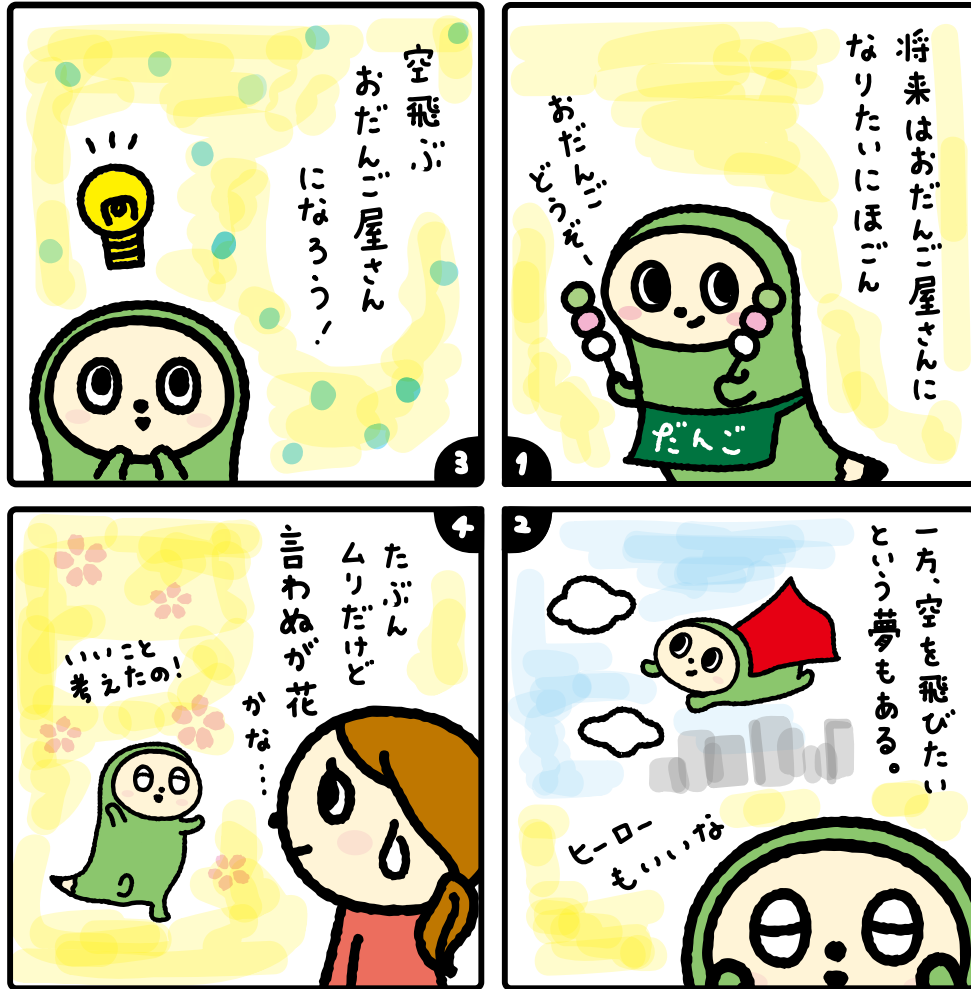
聖母被昇天学院は大阪府箕面市にある幼稚園から高校までのカトリック一貫校です。その中で小学校教育は人間形成の基盤を培うという、重要な使命を持っています。本校においては、学院の教育理念に基づき、一人ひとりの子どもの個性や良さを生かし、一人ひとりが輝き、内に秘めた無限の可能性を最大限に伸ばし、開花させることを最も大切にしています。

女子校である本校では世界に貢献できる女性を育てることを目指し、特に表現力や、コミュニケーション力を磨くために英語教育と日本語教育に力を入れています。とりわ

け日本語検定は、国語力の基礎である言語力を身につけるために重視してきました。教科書だけでは数時間でしか扱われることがなく、定着させることが難しい文法や敬語等を、日本語検定の問題集でさらに学びを深め、日本語検定に合格することで子どもたちに自信をつけさせています。授業の始めの5分で日本語検定の問題集を使って学習したり、問題集から抜粋した問題で学習理解状況をテストで確認したりしています。そのかいがあり、日本語検定委員会から本校は小学校部門で団体表彰をいただくことができました。

これからも日本語検定を通して、子どもたちの学習を深め、自信をつけさせていきたいと考えています。本当にありがとうございました。





絵：福政 真奈美

「言わぬが花」

はっきりと口に出してしまわないほうがよいこと。

例：「彼の話はおもしろいけど、矛盾するところがあるね。」
「それは言わぬが花だよ。」



時事通信社の専門情報誌

60 年余にわたる
実績と信頼

内外教育 厚生福祉
地方行政 税務経理
金融財政 Business

週2回お手元にお届けします

- 内外の一流執筆陣、第一線記者らの的確な解説と迅速な情報
- 実務家のためのノウハウ、実例を満載、資料・データも豊富

時事通信社 104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 104-8178 東京都中央区銀座5-15-8
www.jiji.com www.jiji.com お問い合わせは 事務局 事業部 jigyokikaku@grp.jiji.co.jp

教育における能力と可能性を導く最前基地となることを目指して
さまざまなシーンをサポートしてまいります!

学力調査 特別支援教育 教育シンポジウム 教育機関誌
意識調査 体力テスト 授業評価 学校評価 授業評価 教員研修

エデュフロント 企画/制作/コンピュータ処理/運用 本社 〒114-0004 東京都北区志村2-17-1
TEL: 03-5390-7556 Fax: 03-5390-7583
TEL: 03-5390-7556 Fax: 03-5390-7583
http://www.edufront.co.jp/

教育の印刷・信頼の技術
株式会社 リーブルテック

教科書印刷で培った
知識と技術を未来へ伝える

王子本社：〒114-0004 東京都北区志村1-23-31 tel: 03-3927-6411 (代)
埼玉工場：〒347-0004 埼玉県加須市古川1-2-3-1 tel: 0480-66-4761
http://www.livretech.co.jp/

平成26年度
第1回
日本語検定
受検案内

[一般会場] **6月14日(土)**
 [準会場] **6月13日(金)・14日(土)**
 [申込期間] **3月1日(土)～5月16日(金)**
 [実施都市] 全国の約100都市で実施予定

[受検級の目安と受検料] ※受検料は税込価格です。

受検級	各級のレベル	受検料	受検の目安						
			社会人	大学生	高校生	中学生	小学校高学年	小学校中学年	小学校低学年
1級	社会人	6,000円							
2級	大学卒業程度	5,000円							
3級	高校卒業程度	3,500円							
4級	中学校卒業程度	2,000円							
5級	小学校卒業程度	1,500円							
6級	小学4年修了程度	1,500円							
7級	小学2年修了程度	1,400円							

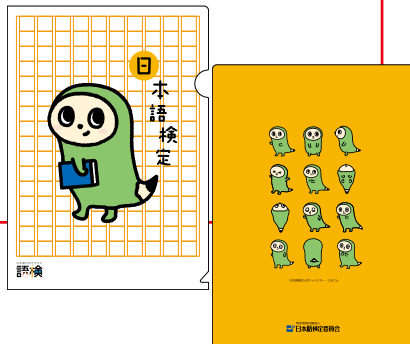
公式ホームページ <http://www.nihongokentei.jp>

プレゼント・クイズ

問題：「にほんご にほんご劇場」で取り上げた
 慣用句は何でしょうか。
 ○の部分に補って完成させてください。

『言わぬが○』

抽選で5名様に、オリジナル『にほんごクリアファイル』『にほんごメモ』セットをプレゼントいたします。はがきに、クイズの答えと、お名前、性別、年齢、ご住所、ご連絡先（お電話番号またはメールアドレス）を明記のうえ、日本語検定委員会までお送りください。平成26年7月1日の消印まで有効です。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。（応募の際の個人情報は、本プレゼント以外には使用しません。）



特定非営利活動法人
日本語検定委員会

〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1

【お問い合わせ先】 **0120-55-2858**

<http://www.nihongokentei.jp>

ごけん 平成26年春号 (No.15)